

名古屋芸術大学グループ 通信



06
February
2008

Feature 歌い、踊り、演じる。〈特集〉音楽学部音楽文化創造学科 ミュージカルコース

Entexit

エンタジット

東キャンパスキャリアサポート事情

- 音楽学部 教員採用試験に18名が合格しました!
- 2月以降も出願可能な入試
B日程(一般・センター併用)、
II期(大学院)入試出願受付中!

Close up! NUA-ism

～進化する「名古屋芸大」のDNA

NUA-STUDENT

「日常の風景を前向きに捉えたいんです」

大学院美術研究科洋画2年 鈴木勇士

NUA-OB

「一歩、行動するかしないか、の違い」

似顔絵セラピスト イラストレーター ケンイチ

News/topics

ニュース&トピックス

音楽学部

- 名古屋芸術大学オーケストラ
第25回定期演奏会が行われました
- ジャズ・ポップスコース特別講座
「ジャズドラマ公開講座」
- 名古屋芸大の音楽講習会でステップアップ
2007冬期音楽講習会が開催されました

デザイン学部

- 2007年度デザイン学部企画展
「奥山清行展」が行われました
- 「デザインレビュー」が一般公開されました
- 「一脚の椅子を求めて」名古屋芸術大学×株式会社天童木工
産学協同プロジェクト」による展覧会が行われました

美術学部

- 美術文化学科小企画展
「私の創造現場」が開催されました
- コンスタンティン ブランクーシーの
〈トゥルグジュのアンサンブル〉ルーマニア視察旅行

人間発達学部

- 第16回文化創造セミナーが行われました
テーマ「日本の未来とものづくり
—子どもたちの造形活動をとおして—」

芸大祭(東・西キャンパス)

- テーマ「MARBLE2007」
- テーマ「はじめまして。」

専門学校

- 公開コミュニティ講座の開催
- 学校祭の開催

幼稚園

- 「エコ」をテーマに作品展を行いました

コラムNUA

私は芸術オンチ?

美術学部教養部会教授 大橋 廣

Master Artist

マスターアーティスト

「そのドキドキには理由がある」

音楽文化創造学科

サウンドメディアコース専任講師

長江和哉

Information

インフォメーション

- 2008年2月以降の主な行事・

イベント案内

- 編集後記



名古屋芸術大学グループ

<http://www.nua.ac.jp>

- 名古屋芸術大学/大学院: 音楽研究科 美術研究科 デザイン研究科
- 音楽学部 美術学部 デザイン学部 人間発達学部
- 名古屋芸術大学短期大学部/音楽科 保育科
- 名古屋保育・福祉専門学校/保育科 介護福祉科
- 名古屋芸術大学附属クリエ幼稚園
- 滝子幼稚園



歌い、踊り、演じる。Musical 〈特集〉音楽学部音楽文化創造学科 ミュージカルコース

音楽学部音楽文化創造学科のミュージカルコースは独自の教育スタイルのもとで、明日のミュージカル界を担うパイオニアを養成しています。ここでは、ミュージカルを構成するあらゆる要素を立体的に体験しながら、次々と新しい展開を見せ続けているミュージカルの本質を学ぶことが出来ます。

ミュージカルは、アクティング・ヴォーカル・ダンスの3パートに精神性を加味した時代の先端を行く舞台芸術です。本学ミュージカルコースの特色は、脚本・演出から舞台美術までその全てがオリジナルであることです。今回はこのミュージカルコースにスポットを当て、教員と学生たちの動きを追いながら脚本から実演までの過程をご紹介します。また、3月公演「Nostalgia ～ショービジネスの魔女たち」の内容もご案内しています。3月公演に是非お出かけください。



ミュージカルコースでは、毎年、オリジナル・ミュージカルを創り続けています。そして、その全て、脚本・演出・音楽・振付・舞台美術などの全てが名古屋芸大のスタッフの手による、名古屋芸大発の作品です。こうしたことが可能なのは、ミュージカルコースの教員の殆どが、今も、東宝や松竹、宝塚、ジャニーズのミュージカル創作の実際に携っているスタッフによって構成されているからです。

オリジナル作品の第一作目は、救国の少女ジャンヌ・ダルクがショービジネスの街に現れる『Swing!Jeanne,Swing!』、第二作目は、ショービジネスの夢を追う若者たちを描いた『Girls～ブロードウェイの魔女たち～』、第三作目は、童話の世界の妖しい主人公たちが勢揃いした『Fairy Tales～あなたの為の危ない童話集～』、第四作目は、海辺の高級リゾートホテルで起こった奇妙な殺人事

件を描いた『アップルパイは殺しのサイン!?』でした。

今回の『Nostalgia～ショービジネスの魔女たち』は五作目のオリジナル作品となりますが、これらの作品は、名古屋市内で上演されるだけでなく、高山・金沢・姫路・韓国馬山市などでも上演されています。

昨年は韓国大邱市で開催された「大邱国際ミュージカル・フェスティバル」に招聘され、そこで上演された『Fairy Tales～あなたの為の危ない童話集～』が銅賞を獲得しました。

また、オリジナル・ミュージカルの他にも、現在、ブロードウェイで上演中のミュージカル作品をコラージュした『Musical Express』というミュージカル・ショーを年に数本創作し、東海地区にある中学・高校での芸術鑑賞会での上演も続けています。

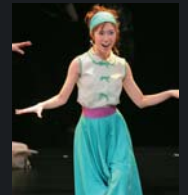
2005年初演「Girls～ブロードウェイの魔女たち～」



2007年初演「アップルパイは殺しのサイン!?」



2006年初演「Fairy Tales～あなたの為の危ない童話集～」2007年大邱国際ミュージカル・フェスティバル銅賞



ミュージカル・コースでは、スタジオで行われる様々なレッスンと公演の為にリハーサルが日常的に繰り返されています。スタジオで学んだことをオン・ステージで実践する。そしてその体験を受けてまたスタジオでレッスンに取り組む。この反復の中で、刻々と変わり行くミュージカルという時代のエンターテインメントの将来を支えるプロフェッショナルな人材の育成を目指しています。

名古屋芸大のミュージカル・スタジオは、若者たちが様々な技術を身につけるトレーニング・ルームであると同時に、ミュージカルを創り上げる最新の現場でもあるのです。

卒業生の中には、劇団四季、音楽座、東京ティ

ズニーランド、サンリオ・ピューロランドなどでアーティストとして活躍する人たちが数多くいます。また、音楽学部にある研究所内に創設されたプロフェッショナルなミュージカル劇団「カンパニー・ワン」のメンバーとして、自前の公演を続ける一方、各種オーディションにも挑戦し、松竹座の「関ジャニ∞ミュージカル」、「名倉ジャズダンス・スタジオ公演」「東海テレビ祭り」などのステージにも立っています。

今日もミュージカル・スタジオでは、学生やカンパニー・メンバーたちが、新しいエンターテインメントであるミュージカルの魅力を少しでもきらびやかなものにしようと歌い、踊り、演じています。



新作ミュージカル制作レポート 『Nostalgia～ショービジネスの魔女たち～』

作品の概要が決ったのは昨年秋でした。学内のミュージカル・スタジオで、毎日のように、夢に向かって必死に格闘している若者たち。少しずつ夢に近づいて行く者、なかなか近づくことの出来ない者…。そんな光景を見詰めていたミュージカルコースのスタッフたちから、「今年は、彼女たちと等身大の登場人物が登場するミュージカルを創ろう」という意見が出されたのが始まりでした。

台本はいつもの通り森泉博行が担当することになりましたが、スタッフたち間では、「例によって、台本の完成はとっても遅いんだろなあ」という不安が渦巻いていたことも確かです。

そして、その不安は的中しました。約束の年末になっても「台本のかけら」すらありません。決っ

たのは『Nostalgia～ショービジネスの魔女たち～』というタイトルのみ。普通、こういう場合は演出家が催促するものなのですが、演出も森泉博行の担当ということで、とにかくも大停滞。

それでも、各種の打合せだけは進行させる必要があります。まずは、舞台美術とポスター・デザインを担当する三原康博から。この先生、レコード大賞や東京音楽祭などのゴージャスなセットから鉄パイプだけの簡素なセットまでをこなす才人。たった一度の打合せでしたが、今回はシースルー・ヴィジョンというLEDを組合わせた大画面に映像を写すプランに決定しました。

続いては、井上堯之との音楽打合せです。ミュージカルの曲数は平均で30曲ほど。長谷川雅大



✦ text by

脚本・演出

森泉 博行

(もりいずみ ひろゆき)
音楽学部 音楽文化創造学科
ミュージカルコース
教授



舞台装置

三原 康博

(みはら やすひろ)
音楽学部 音楽文化創造学科
ミュージカルコース
客員教授

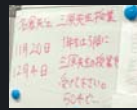


打ち合わせ風景。
ポーズをとる主演
の女子学生

ミュージカルで使用
される舞台衣装



名倉先生による振付
指導風景。ダンスの練
習に打ち込む学生達



音楽

井上 堯之

(いのうえ たかゆき)
音楽学部 音楽文化創造学科
ミュージカルコース
客員教授



音楽

長谷川 雅大

(はせがわ まさひろ)
音楽学部 音楽文化創造学科
ミュージカルコース
非常勤



演奏

竹内 雅一

(たけうち まさいち)
大学院音楽研究科 器楽専攻
音楽学部 演奏学科 弦管打・
バンドディレクターコース
教授



振付

名倉 加代子

(なくら かよこ)
音楽学部 音楽文化創造学科
ミュージカルコース
客員教授

と共にその全てを作・編曲する労力は並大抵のものではありません。本番数日前までスコアを書いていたこともしばしばです。その井上先生との打合せは、「詞をくれればいつでも書き始めますよ」の一言で終了。

次は指揮者である竹内雅一とバンドのメンバーについての打合せ。ミュージカルコースの全公演を指揮している竹内先生は、瞬時にして各シーンに見合った劇的な音楽を仕立て上げるプロ。ミュージカルを、あらゆる音楽を愛し、楽しんで演奏して下さるクラリネットの演奏家・竹内先生。この先生なくして名古屋芸大のミュージカルはなかったでしょう。

最後は振付の名倉加代子との打合せ。名倉先生がいたからこそ日本のミュージカルはここまで来たと言われているジャズダンスの第一人者。登場人物の心情をダンスに託し、芸術の領域へと昇華させる腕前にはいつも感服させられます。

さて、今回の公演『Nostalgia～ショービジネスの魔女たち～』。舞台は廃墟となってしまった劇場。かつては眩しいほどの煌めきに包まれていたこの劇場に、ショーを愛する魔女たちが集まり、幻のステージを再現させるという趣向。初日の幕が上がるのは、3月27日から…。

ノスタルジア

Nostalgia

～ショービジネスの魔女たち～

3月27日(木) PM6:30 開演
28日(金) PM3:00 開演

会場：名古屋市芸術創造センター ホール
〒461-0004 名古屋市中区栄一丁目3番27号
Tel 052-931-1811
地下鉄東山線「新栄町駅」下車、1番出口を北へ徒歩約3分
入場料：1000円

脚本・演出 / 森泉 博行
舞台装置 / 三原 康博
音楽 / 井上 堯之、長谷川 雅大
振付 / 名倉 加代子
指揮 / 竹内 雅一

公演の見どころ

ミュージカルの最大の魅力は、エキサイティングなダンスシーンです。心の躍動を肉体に託して表現するダンスは、若者たちにとっては魅力的なジャンルです。今回の公演でも、ジャズだけではなく、タンゴ、スパニッシュ、ロック、ファンキーといった様々なダンスシーンが用意されています。

ミュージカルコースでは、創設以来、「踊ること」に非常に重点をおいています。『オペラ座の怪人』

や『レ・ミゼラブル』といった「歌うミュージカル」が人気を集める一方で、ブロードウェイ・ミュージカルの伝統ともいえる「踊るミュージカル」も永遠の支持を得ています。『ウエストサイド・ストーリー』や『シカゴ』、『42ndストリート』の華やかで粋でダイナミックなダンスシーンに魅了され、未だに記憶に残されている方々も多いと思います。

踊ることの大好きなミュージカルの若者たち、ミュージカルコースの学生や研究員たちの中には、なんと、ブロードウェイまで行って本場のダンスレッスンを受けた人たちが何人もいます。

名倉加代子の徹底した指導によるミュージカルコースのダンスシーンは、公演のたびに高い評価を受けています。さて、今回の公演ではどんなダンスを見ることが出来るのか。初日が楽しみです。

東キャンパスキャリアサポート事情

音楽学部 教員採用試験に18名が合格しました!

【資格講座を充実】

2004年度より就職およびスキルアップを支援するために、就職支援・資格取得講座を開催しています。初年度は23講座を89名の学生が受講しましたが、現在は39講座に対し、延べ740名の学生の申込みがあります。Microsoft Office Specialist Word・Excel試験、音楽検定、秘書技能検定対策講座等では、受講生の合格者が増えています。

今年度はさらに、学生の要望にあわせ教員採用試験対策講座および小学校教員資格認定試験対策講座の充実を図りました。これらの講座では、一般教養および教職教養ともに、過去の出題傾向等のデータをもとに、重要分野を効率よく学習する機会を提供しています。在学中に小学校教員資格認定試験(*印参照)に合格し、小学校教諭2種免許状を取得する学生もいます。(音楽・美術・デザイン学部の学生対象)

【教員採用試験の合格者が増加】

2007年度の教員採用試験において、在学生5名を含め18名が合格しました。(2007年11月15日現在)。内訳は、愛知県11名、名古屋市1名、岐阜県5名、佐賀県1名です。在学生合格者の声を紹介しています。

*** 小学校教員資格認定試験とは**

文部科学省が実施しており、教員免許を持っていない、あるいは小学校教員養成課程のない大学の学生に、小学校教員への門戸を開くために実施されている試験です。

■ 音楽学部 教員採用試験合格者リスト

 鈴木 綾子 愛知県 小学校 ● 器楽科 ● 弦管打コース 弦管打選択コース 《抱負》学校が好きなので、全教科を通して児童の良いところをたくさん発見できるように、日々勉強していきたいと思っています。	 久保 亜由美 愛知県 中学校 ● 音楽教育学科 ● 音楽教育選択コース 《抱負》私が学校を元気にします。音楽の授業内はもちろん、毎朝いちばん大きな声で挨拶して、笑顔で始まる朝にしたいです。	 志知 恵子 岐阜県 中学校 ● 器楽科 ● ピアノコース ピアノ演奏選択コース 《抱負》自分がピアノを通して『音楽』だけでなく、あらゆることを学んだように、子どもたちにも音楽を通して、人への思いやり、積極性、行動力などを引き出してあげたいです。	 藤掛 泰子 岐阜県 中学校 ● 音楽教育学科 ● 電子楽器選択コース 《抱負》どんな時でも生徒に寄り添い、後ろからそっと背中を押してあげられるような教員になりたいです。大事な事も多いと思います笑顔忘れずに頑張りたいです。	 川内 悠華 佐賀県 中学校 ● 音楽教育学科 ● 音楽教育選択コース 《抱負》音楽の楽しさだけでなく、友情や命の大切さなどをテーマに道徳にも力を入れ、生徒の気持ちをわかってあげられる教員になりたいと思っています。
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

また、東キャンパスでは保育士資格やグレードの取得などの目標を設定し努力している音楽学部の学生がいます。就職課では随時情報提供を行っていますので、ぜひ利用してください。

2月以降も出願可能な入試

B日程(一般・センター併用)、Ⅱ期(大学院)入試出願受付中!

学部/大学院	入試種別	出願期間	試験日	合格発表日
音楽	B日程入試	2月27日~3月21日	3月25日	3月26日
大学院音楽研究科	B日程入試	2月27日~3月21日	3月25日	3月26日
美術	センター利用入試 (アートクリエイター・美術文化領域のみ)	1月30日~2月13日	センター試験のみ	2月28日
美術	B日程一般入試	2月21日~3月7日	3月17・18日	3月21日
美術	B日程センター併用入試	2月21日~3月7日	3月17・18日	3月21日
大学院美術研究科	Ⅱ期入試	1月21日~2月7日	2月18日	2月22日
デザイン	地域入試(東京)	1月30日~2月13日	2月21日	2月28日
デザイン	B日程一般入試	2月21日~3月7日	3月18日	3月21日
大学院デザイン研究科	Ⅱ期入試	1月21日~2月7日	2月18日	2月22日
人間発達	一般B日程入試	2月18日~3月3日	3月8日	3月13日
人間発達	センター後期入試	2月18日~3月3日	センター試験のみ	3月13日

Close up!

進化する「名古屋芸大」のDNA

NUA-ism



6号の習作「鳥休め」。何処にでもありそうな、どこか懐かしい家並に、鳥休めの柱が立つ。実験的な要素も含まれる。

日常の風景を 前向きに捉えたいんです

ガラんとしたC棟のアトリエ。これまで幾多の大学院生に制作の場として使われてきた。壁に残る染み、傷跡、画材の匂い…。現在、この空間を占有するのが鈴木勇士さん。先人たちが残したピンナップやポスターもそのままに、制作に勤しむ。部屋の片隅に設けられた仮眠のためのスペースが、その意欲と集中力を偲ばせる。ゆっくりとした口調で、自分の内面を丁寧に言葉にしてゆく。今でこそ、絵に正面から向かえるようになったが、1、2年の頃は、けっして真面目な学生とはいえなかったという。

「本当に怠慢で、学校にもあんまり来てませんでした。2年の終わりだったかな？ 3年からですね」理由を聞けば、絵が描けなかったという。

「気持ちの問題ですかね？ 描いていても途中までしか描けなかったんです」

高校3年の中ほどで美大への進学を決意。半年間でがむしゃらに準備したという。「大学へ入り制作時間が長くなってテンションが続かないというか、ペースがつかめなかったんです」さらに、人物のデッサンで壁に当たってしまったという。「人物を描くのは好きなんですけど…。モデルさんがいて、それを描くと



Vol.5 NUA-STUDENT 鈴木勇士

大学院美術研究科絵画研究領域
洋画制作研究2年



モチーフの写真。カメラをクルマに、常に乗せているとのこと。いい景色が見つければ、いつでも写真に収める。



制作中の大作。100号×3のサイズ。モチーフは、故郷である豊橋の近郊。鳥瞰した町や流れる雲は、屏風絵や絵巻を思い起こさせる。日本画への思いが伝わる。

ということですが、そこに自分の絵を描こうとすると、モデルという相手があって、自分があって、その両方を一緒にしたものここに描かなきゃいけない。それができなかったんです」描きかけの人物画に苦慮が滲む。「モデルさんを描きたかったのに、どうしても自分が入ってきちゃう。それが駄目で…」制作に打ち込むことなく2年間が過ぎた。

転機は、些細なことだった。「課題で風景画があったんです。これがすんなり描けたんです。先生方から見ればまだまだと思うんですけど、自分で気に入るところまで描けたんです。風景なら描ける、と思ってそこからもうずっと風景しか描いてなくて…」作品と自分に素直でいること、それが制作への足かせとなっていたようだ。描きたい気持ちは人一倍あったのかもしれない。その後は制作に没頭した。

何でもない何処にでもありそうな建物。そしてそこに僅かな暖かみ、安堵、懐か

しさが宿る。作品から漂う空気が心地よい。制作中の大作は日本の屏風画や絵巻物を思わせる風景画だ。「意識することは、自分がここで生まれて、ここで育ったということ。今ここ、日本にいて、この地において、地に足を付けて歩いているじゃないですか。そのことを大切にしたいんです」浮世絵や日本画への愛着も強い。

「肩に力の入った作品とか作りたくないんですよ。普通の風景なんですけど、前向きに捉えたいんです、日常の風景を。自分の立っているところを前向きに。作品を見た人にちょっとポジティブなところを与えたいんです」

自ら「腰を上げるのが重い方」と笑う。しかし、ゆっくりだが着実に思うところへ進んでいることが傍目にもはっきりとわかる。この先、作風がまだまだ変わっていくことを予感させる。自分の納得するものを求め、ひとつひとつ進んでいこうとする姿に、器の大きさと清々しさを感じた。

Close up!

進化する「名古屋芸大」のDNA

NUA-ism



自分ひとりで考えたわけではなく、いろんな方がいて始まったのがありますからね。仲間を大事にしたいですね

一步、行動するかしないか、の違い

画家、イラストレーター、漫画家、あるいは陶磁器の絵付師、CGクリエイター…、世の中には絵を描くという職業は数限りなく存在する。そうした絵を描く仕事の中でも、もっともプリミティブな形が似顔絵ではないだろうか。路上で、たった一人の為にその人の顔を描き、対価を得る。絵画と商業が、シンプルに結びついたものである。学生時代に会った似顔絵。すぐに魅了された。

「オープンキャンパスのときに、イラストコースで何か出さないかということになり、似顔絵を出そうかと。初めてそこでグループ5、6人で出したんですけど、それが面白かったんです」イラストレーターになりたいとデザイン科の門をたたいて2年、このことをきっかけに似顔絵にのめり込んだ。「絵は部屋でこもって描くものですけど、似顔絵はライブでやってるよさがあるんです」似せて描くことはもちろん、描いている様を見せるライブ感が新鮮だった。「描かれていく過程を見て、笑いが出てくるというところがすごく面白いなと思ったんです」

卒業後も、就職より似顔絵を選んだ。在学中に知り合ったプロモーターから、東京のプロダクションを紹介された。「す



「週刊ダイヤモンド」のために描いたイラスト。各国の首脳陣の似顔。



2007年 似顔絵国際大会優勝

Vol.6 NUA-OB ケンイチ



村岡賢一
似顔絵セラピスト イラストレーター
1982年（昭和57年）、広島県生まれ。
2004年 美術学部 デザイン科卒業。
在学中から似顔絵活動をはじめ、卒業後は似顔絵プロダクションに所属。
2006年 似顔絵世界大会（早書き部門）Best8
2007年 似顔絵国際大会（最優秀白黒テクニック部門）優勝
2006年より「似顔絵セラピー」開催、07年よりフリーとなり、イラストレーターとしても活躍中。
ホームページ <http://www.nigaoe-therapy.jp/>

ごい人たちの中で、揉まれてみたいというのがあって…」刺激を受けた。絵柄も変わった。世界大会という貴重な経験をするこもできた。

「似顔絵というのは、絵の世界ではどうしても下に見られます。でも先達たちのおかげで、ジャンルとマーケットが確立され、純粋に似顔絵がやりたいという才能ある人たち、作家性のある人たちが、どんどん入ってきてます。これまでにある場所だけでなく、また違った活躍できるステージができるといいなって思ってます」

似顔絵で何かできないか？ この思いは、思わぬ形で転がり始める。「絵を描くところを見せ笑わせる」これがホテルアートのプロデューサーの目に留まる。「病院に笑いを」と、似顔絵セラピーが始まった。

似顔絵の持ち味といえばカリカチュア。モデルをデフォルメし、ピリツとした風刺で笑わせるのが基本。しかしセラピーではこの味は不要だった。描かれたモデルに元気を出してもらうのが目的。絵柄は優しいものへと変わっていった。「昔の、本来の自分の絵に戻ってきてる感じがですね」

元気になってもらうという目的は、絵に対する考え方も変えた。「病院での絵は、絶対に自己満足ではいけないんです。その人のそのままを描くことではなく、その人の人生を受け止めて描くということなんです。でも、そんなことはまだまだできませんから、できるだけ話を聴くんです。看護病棟では、聴いてそれを絵にするんです」身なりや、髪型、言葉尻から、その人の思い出、好きなこと、楽しい気持ちになることを見つけ出し、似顔絵にこめる。

似顔絵の宿命は、絵はモデルのものということ。思いをこめた会心の作でも、手元に絵は残らない。「いい作品ができると惜しいですね（笑）。でも、自分の手元に置いてあってもその似顔絵に興味があるのかと思うんです」芸術家とは立場を異にする、もうひとつのプロフェッショナルな世界である。

「アイデアって誰でも考えているけど、それを一歩行動するかしないか、の違いは大きいです。とりあえずやってみることを。やってみると何かが起こるんです」似顔絵で何かをしたいという思いは、たしかに何かを動かし始めている。

音楽学部

名古屋芸術大学オーケストラ 第25回定期演奏会開催

2007年11月29日(木)愛知県芸術劇場コンサートホールにおいて、名古屋芸術大学オーケストラの第25回定期演奏会が行われました。記念すべき25回目となった今回は、久しぶりに合唱が加わる作品としてG・ヴェルディの「レクイエム」がプログラムに登場しました。

ソリストには、本学の卒業生の中から、国内外で活躍し多数の演奏会に出演しているソプラノの小林玲子、メゾ・ソプラノの飯森加奈、テノールの笛田博昭の各氏が、そして、バリトンは藤原歌劇団の豊島雄一氏が客演で迎えました。

プログラムは、本学演奏学科長古

谷誠一の指揮のもと、最初にヴェルディの26作ある歌劇の中でも最もポピュラーな序曲のひとつである「運命の力」が演奏されました。休憩を挟んで、ソリスト4名と名古屋芸術大学合唱団及び賛助出演の名古屋市民コーラスが加わり、「レクイエム」が演奏されました。

コンサートホールを埋めた聴衆の惜しみない拍手のなかで、定期演奏会は幕を閉じました。



音楽学部

ジャズ・ポップスコース特別講座 「ジャズドラム公開講座」

2007年11月8日(木)、11月15日(木)、12月13日(木)、そして、12月20日(木)の4回にわたり、東キャンパス2号館大アンサンブル室において、音楽学部の特別客員教授である森山威男氏による公開講座が行われました。

11月8日(木)の講座では、音楽文化創造学科のジャズ・ポップスコースの学生を中心としたドラム専攻の学生が10名受講しました。最初に練習台を使つての基礎打ちから始まり

ました。森山氏はスティックの持ち方や姿勢など1人1人丁寧に指導されました。

次に、「長い」の反対に「短い」があったり、「大きい」の反対に「小さい」があるように、「正確」の反対は「デタラメ」であると定義し講義が進みました。

11月15日(木)の講座では、練習材料として譜面を配布し、練習台を使つての基礎打ちから始まり

ました。次にドラムセットを使用し、複雑なフレーズを手足を交互に叩くという講義に展開しました。音量やアクセントを加えたり無表情に演奏してみせるなど音楽的な指導もありました。実際にお手本として森山氏が演奏される場面もあり、受講生はそのサウンドに魅了されていました。

この2回の講座で受講生は多くの課題・発見が得られたようでした。

12月13日(木)の講座では練習台を使用し、基礎打ちから始まりました。右手・左手を交互に叩いたり、十六分音符と三連符の組み合わせやアクセントの位置を変えるなど11月の講座よりも高度なリズムパターンに学生も苦戦しながら挑戦し、なれてきたらひとりひとりがドラムセットで実践しました。どんな難しいフレーズでもテンポを崩さないようにするには曲を歌いながら叩くことが重要

だと先生は伝えて下さいました。

ここでこの日の講座は終了しましたが、なんと、じゃんけんに勝った1名の人に森山先生の最新Live DVDがプレゼントされるということになり、見事手にしたのは1年生でした。最後に嬉しい企画もあり、楽しい講座になりました。

12月20日(木)の講座では練習台を使用しての前回の復習から始まり、ひとりひとりドラムセットを使用して応用編を演奏しました。学生たちは講座の回を重ねるごとに上達して、森山先生も感心されていました。

11月からのまとめとして、どんな練習をするときでも、曲を歌いながら練習する・録音して客観的に自分を観る・他のバンドプレイヤーが何をやっているか聴くという3点を重点に練習することが重要だと語られました。

最後に、誰にも真似できない(譜面では表せない演奏・機械では演奏できない)個性的なドラマーを目

指してくださいとメッセージを頂きました。

学生たちは教えてもらったことを演奏で生かせるように日々練習に励みたいと意欲を燃やしていました。



音楽学部

名古屋芸大の音楽講習会でステップアップ 2007冬期音楽講習会開催

音楽大学を受験する人はもちろん、音楽を幅広く学ぼうとする人も対象として、恒例の冬期音楽講習会が12月24日(月)～27日(木)まで開催されました。

講習内容は、6コースで、●実技アドバンスコース：声楽、ピアノ、管弦打楽器、電子オルガン、ジャズ・ポップスの実技科目が開設され、将来音楽系の大学に進学を希望する方や同等のレベルを目指す方向きで開催されました。期間中に2回(1回40分)の個人レッスンが行われました。●実技ベーシックコース：基

礎的な領域を学ぼうとする方が対象のコースで、実技科目はアドバンスコースと同じです。期間中1回(30分)の個人レッスンがありました。

●サウンド・メディアコース：コンピュータを使った音楽制作演習講座で、作曲や、編曲、サウンドクリエイトなどを目指している方を対象とした「クリエイターワークショップ」と、レコーディングやPA、スタジオワークなどのエンジニアリングやサウンドデザイナーを目指している方の「エンジニアワークショップ」の2グループに分かれて行われ

ました。この講座は24日～25日まで2日間のみ開講されました。●ミュージカル・リズム&ステップコース：期間中2回(1回180分)のグループレッスンが行われました。●楽典コース：受講生の希望により能力別に、小中学校クラス、初級・中級クラス、上級クラスの3つに分かれて、期間中に3回(1回60分)の授業が行われました。●ソルフェージュコース：楽典コースと同様に、

能力別に3つのクラスに分かれて3回の授業が行われました。

本学の音学講習会は希望する科目だけを選んで受講することも可能です。また、中学生以下の方には受講料が半額の特典が付いています。小学生から一般社会人まで、期間中に200名に近い受講生がキャンパスのあちこちに溢れ、それぞれの教室で熱心に受講している姿が印象的でした。



小林聡先生によるソルフェージュコース 上級クラスの授業風景

デザイン学部

2007年度デザイン学部企画展 「奥山清行展」が行われました

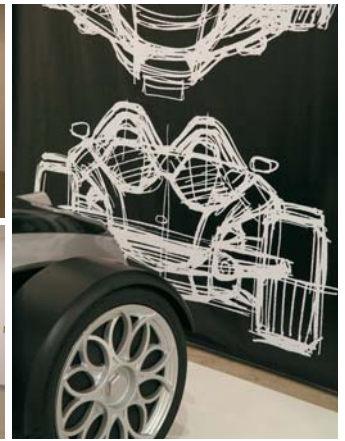


名古屋芸術大学西キャンパスのアート&デザインセンターで行われていました「奥山清行展—2007年度デザイン学部企画展—」は、11月20日(火)に全日程を終え、大盛況の中で成功裏に終了しました。

11月3日(土)から始まったこの展示会は、初日に、関連イベントとして奥山氏自身による「デザイントーク＝フェラーリから鉄瓶まで / 日本とイタリアのものづくり」が行われ、本学B棟大講義室を埋め尽くした学生や一般社会人が聴講しました。氏が世界的に知名度のあるカーデザイナーになるまでの足跡や苦心談・成功談などが、アメリカやイタリアにおける所属会社での様子を交えながら熱っぽく語られました。また、カーデザイナーとして成功を取った奥山氏は、現在は独立し個人事務所を開設して、プロダクトデザインの分野、特に、家具・ロボット・インテリア・交通機関・都市計画などに活躍の場を広げています。トーク後半では、若い頃からの夢の実現に向けて、日本のデザイン界の活性化とものづくりのための決意を語っていただきました。

展示会は期間中大勢の来場者があり、奥山氏のカーモデルから最近のプロダクト作品まで熱心に鑑賞されていました。

なお、奥山清行氏は、2007年11月27日に発表された第36回ベストドレッサー賞(インターナショナル部門)を受賞されました。



デザイン学部



「デザインレビュー」が 一般公開されました

デザイン学部では、1,2,3年生を対象として、毎年年度末に作品の展示・口頭プレゼンテーション・撤収を含めた演習科目「デザインレビュー」を実施しています。教員に向けてのプレゼンテーション・講評を終えた展示会場は、一般に向けても公開されます。

本年度は2008年1月19(土)、20(日)

を会期に、本学西キャンパス体育館において[REVIEW]として開催され



ました。各学生が1年間で制作した全ての作品を決められた個人ブース内(一部異なった形式もあります)に展示し、それぞれが創意をこらし「自分の世界」を表現しました。

卒業制作展以外では、学生たちの日常的な研鑽を学外に向けて公開できる数少ない企画のため、ご父母をはじめ多くの方がキャンパスに訪れてくださいました。



デザイン学部

「一脚の椅子を求めて—名古屋芸術大学×株式会社天童木工—産学協同プロジェクト」 展示会実施

名古屋芸術大学インダストリアルデザインコース・スペースデザインコース3・4年生で古くから使用してきた椅子約70脚を老朽化の為に買い換えることになりました。大学と学生4人の有志のメンバーがチームとなり、現在使用して問題になっている椅子の様々な要素を見つけ出し、デザインして行き、成型合板の技術で有名な株式会社天童木工(山形県天童市)と共同で製作を進めて来ました。

天童木工では、様々な型が多く生まれる為、既にある型を活かしつつ

Reデザインする事で、ただ新しいものを作るのでは無く、ローコストで出来るオリジナルデザインの椅子を考え制作して行きました。

本企画は「学生が学び、デザインして行く為の椅子」をテーマに、次の世代へとデザインを遺して行くプロジェクトです。又、今回行われた展示会は街中にあるカフェで、制作された椅子約70脚を実際に使用してもらうことや、プロジェクトでのデザインプロセスモデル、制作DVDを展示上映するなど、広く一般の方々まで関

心を持っていただける展示内容となりました。

展示会は以下の要領で実施されました

日時:2007年10月23日(火)~11月5日(月) 10:30~20:00

プレゼンテーションパーティー:10月31日(水) 18:00~

会場:7th Cafe(ナディアパーク7階) 〒460-0008 名古屋市中区栄3丁目18号1 Tel:(052)249-9390

主催:名古屋芸術大学デザイン学部 協賛:株式会社天童木工 名古屋市文化振興事業団

後援:名古屋芸術大学



美術学部

美術文化学科小企画展 「私の創造現場」が開催されました

2007年11月12日(月)～16日(金)にかけて、西キャンパスG棟102号教室(通称ワーキングルーム)において、「私の創造現場」展が開催されました。これは、美術文化学科芸術環境創造選択コース「芸術専門演習」(授業担当教員:相羽、前田、高橋)の成果発表として実施された企画展で、展覧会準備のチーフを3年生の高橋和佳子、

菓子野実の二人が担当し、4年生の越賀登紀子、嶋口丈輝、西田雅彦、村瀬奈津子、山田徹、若林千華がさまざまな形でサポートしてくれました。内容は近年の優秀卒業制作からのセレクション展で、日本画の江端佳世(2006年度卒業)さん、洋画の松浦雄次(2005年度卒業)さん、小村祐太(2006年度卒業)さん、版画の二ノ宮敦子(2004年度卒業)さん、安間史織

(2006年度卒業)さんの作品が展示されました。

13日の夕方には、出品者で本学大学院に在籍する小村さん、安間さんを招いての座談会が和やかに開かれました。作者の制作意図を聞く機会としながらも、展覧会運営には様々な準備と配慮が必要であるか、思いのほか大変だったという本音も聞かれました。

理論系と実技系の学生たちの交流がもっと活発になることを願いつつ、社会とアートの架け橋となる人材の

育成を目指す美術文化学科ではこのような機会を地道に増やしていきたいと考えています。

美術文化学科准教授 栗田秀法



美術学部

コンスタンティン ブランクーシーの <トゥルグジュのアンサンブル> ルーマニア視察旅行

彫刻家、堀内正和が担当していた講義「現代彫刻」で学んだ、ブランクーシーのモニュメントに是非会いたいという思いを、今年の夏やっと実現しました。ルーマニアの西方、トランシルバニアアルプスのふもと、南北に流れるジュー川に沿って、美しい町並みが広がるトゥルグジュ市を訪れました。滞在中には、彼が農家の息子として育ったトゥルグジュ市の近郊、ホピツァ村の生家も訪問しました。

この旅行の目的は、モニュメントのアンサンブル「口づけの門」、「沈黙の円卓」、そして「無限柱」にトゥルグジュの現地で会うことでした。これらの作品にブランクーシーの芸術観が集約的に表現されている事に加えて、このアンサンブルが町の東西の軸線上にある丘から、12使徒教会、英雄通りの町並み、ブランクーシーのベンチのある市立庭園とジュー河畔までという、都市的要素を組み込

んで設置されたことで、現代の都市空間における、パブリックアートの先進的事例としても関心があったからです。

このアンサンブルの注文主はルーマニア婦人連盟ゴルジュ県支部でした。1つは市立庭園の入口の為のモニュメントであり、2つ目は第一次大戦でのドイツとの戦いで戦死した兵士や市民の慰霊塔の設置でした。前者は「口づけの門」ですが、これは初期の「口づけ」という作品が、「門」という形式に強調し拡大された作品です。後者は、この「門」から、約1.5km東方の、丘の上に建てられた「無限柱」です。

これは外形がジグザグに見える垂直の柱で、鉄製の台形のエレメント15個と、その上下に半分の台形で構成されているものです。3つ目はブランクーシー自身の発案になるもので、場所はジュー河畔に、彼が日頃作品の展示台として愛用していた円柱の平たい形の台を、ここでは「沈黙の円卓」として名付けたものです。周りには球形を半分に切って組み合わせたイスを配置しています。「沈黙の…」と名付けてありますが、ブランクーシーは友人に、この作品の周りに市民が集って大いに語り合ったいと語っています。

そして、「口づけの門」の梁にあたる(まぐさ)の四面には「くちづけ」の絵が連続して線で彫られ、下の柱に

は全ての面に大きな円形の目が彫り込まれています。ブランクーシーはこの男女合体の門を愛のシンボルとして、一方は「沈黙の円卓」からジュー川の流れへ、他方は道の途中にある12使徒教会を越えて、丘の上の「無限柱」に沿って続き、天空へ至ることを心にイメージしていたように想像されます。

現在は、このアンサンブルを構成する1.6kmの英雄通りの途中には、鉄道の踏切があり、数本の自動車道路が横切っていて、都市の日常が浸透していますが、私はこの通りを歩く中で、今なお精神的な強さを感じていました。

造形科教授 庄司 達



人間発達学部

第16回文化創造セミナー開催 「日本の未来とものづくり —子どもたちとの造形活動とおして—」

人間発達学部子ども発達学科と短期大学部保育科の共催行事である文化創造セミナーは、様々な文化に触れることによって幅広い視野を持つ感性豊かな教育者・保育者を養成することを目的として開催されています。

第16回目を迎えた文化創造セミナーは、2007年12月8日(土)東キャンパス音楽講堂において、講師に、本学美術学部デザイン科の卒業生である伊

藤美輝氏(現在は山梨学院短期大学保育科教授)をお迎えして、「日本の未来とものづくり—子どもたちとの造形活動とおして—」というテーマで開催されました。

セミナーでは、ご自身が携わっている山梨県立美術館の「つくろうあそぼう造形広場」について、子どもを対象とした造形活動の機会と場の提供であり、子どもの造形活動に関わ

る指導者の育成を目的に実施しているとお話でした。

次に、「体で考える」をテーマに、割り箸と紙コップを使った「かざぐるま」の制作が伊藤先生の指導のもと、会場の参加者全員で行われました。造形の基本は「切る」「貼る」「塗る」なので、実際に体験することによって、理解が深まるとのことでした。

伊藤先生からは、人間発達学部及び短期大学部(保育科)の学生に対し、「楽しいことは楽しいことではありません。名古屋芸大の中で、子どもたち

との造形表現活動を是非実施していただきたい。」という激励のメッセージをいただきました。



芸大祭
(東キャンパス)



東キャンパステーマ
「MARBLE2007」



今年の芸祭テーマ「MARBLE2007」。学生生活で4回しか行われないう学祭。それをきっかけで出会った人もいます。地域の方々や企業の方々、来場者の方々とも触れ合えるよい機会だと思います。私達は、そんな機会を与えられたら、そしてその機会が多くの人が出会い、触れ合い、感動や笑顔を通し、新しい絆が生まれたらという気持ちをテーマに込めました。

昨年好評だった多ステージによるジャンル別ライブ。ブルーステージではジャズを中心に落ち着いた大人な空間を演出。グリーンステージでは、学生ならではの個性派バンドが多数出演。内装も凝るなど、芸大生らしさが出ていました。イエローステージは、音大ならではのクラシック系団体による実力ある演奏会。伝統のあるスベルマホーンズを筆頭に昨年以上の出演数で開催しました。学祭の中心に位置するメインステージでは、テーマに込められた「出会い」を実現できるような企画を中心に、学生や先生によるライブ演奏も開催。短期大学のJoy-tripステージでは子供向け

の企画も取り入れて行われました。初日、2日目は雨の中での芸祭。一時、企画がストップするといった事態もありましたが、そのおかげで皆が協力していたのも事実です。3日目は、天気も回復しここからが芸大祭の本番。地域企画の「また会いにゆきます」では、学生と地域の方とが交流。締めくくりとして行われたバンドで大いに盛り上がりました。

この3日間を通し、どれだけの人が出会い、笑い、涙し、感動したか。私には計り知れません。これは学生だけではないと思います。Marbleは、そんな様々な色が混ざったお菓子から取りました。我が校は、年齢、性別、ジャンルに囚われない自由な学校です。そんな色をこの芸祭では出せたのではないのでしょうか。私もこの芸祭を通し、様々な人と触れ合い、多くの人と共に取り組めた事に感謝致します。



東キャンパス
芸大祭実行委員長
早川彰久



芸大祭
(西キャンパス)



西キャンパステーマ
「はじめまして。」



はじめまして。2007年度芸大祭のテーマ「はじめまして。」は、すべての出会いのきっかけを表わす言葉です。私たち芸大祭実行委員会は、この言葉の持つ力に注目しました。そして、この芸大祭に一つだけルールを作りました。それは「誰に会うときでも合い言葉は『はじめまして』。誰もが「はじめまして」と言うことで、出会いのきっかけが生まれます。

芸大祭を通して新しい出会いが生まれたり、知っている人に改めて「はじめまして」と言うことで新たな側面が見える。そんな出会いが連鎖していく芸大祭になることを願ってこのテーマを決めました。

今年は、子供からお年寄りまで誰からも愛される芸大祭にしようと思ひ、イベントを企画しました。

まず、北名古屋市民の皆様との交流をはかるために、巨大壁画アート

イベントを行いました。普段はなかなか機会がないのですが、多数ご参加いただいた地域の皆様(特に小さなお子さん達)と名古屋芸大生との良い交流の場となりました。

また、以前は芸大祭の伝統であった「おぼけ屋敷」を復活させ、親子連れのお客さんなどで長蛇の列ができるほどの人気になりました。

その他にも「日本一長いきしめんを作るギネスイベント」「名古屋芸大No.1の美女、No.1のエンターテイナーを決めるミスコン・ドラゴンイベント」などが開催され、こちらも大盛況の内に終わることができました。

外来イベントでは、世界的に有名な「渋さ知らズオーケストラ」をゲストとして招きました。ジャズ・ラテン・ポップス・舞踊までもが一体となったライブパフォーマンスは圧巻でした。最後になりましたが、今年の芸大

祭の成功は、模擬店・企画店の皆様や地域の皆様のご協力のおかげだと思っています。本当にありがとうございました。



西キャンパス
芸大祭実行委員長
滝澤和也



公開講座

第18回生涯学習大学公開講座 が開催されました

名古屋芸術大学生涯学習大学公開講座が昨年度も9月～12月まで東西両キャンパスで実施されました。第18回を迎えた本講座は、本学の特徴である美術・音楽・保育に関する講座を中心に、一般教養講座も含めて例年以上に充実した内容で受講生のニーズに応えることができました。今回は開講された講座の中で、これからの高齢化社会で益々ニーズの高まっている「音楽療法」と美術系の講座の中では人気の高い「水彩画」を取材してみました。

東キャンパス

講座名: 音楽療法技法
講師: 音楽文化創造学科教授 久保田進子
開講曜日: 火曜日
時間帯: 15:00～16:30

9月25日(火)から11月6日(火)まで全6回の日程(10月30日を除く)で開講されました。

今回の講座では、音楽療法で使用する音楽と各種楽器について、また、臨床場面において、対象者の方それぞれの目標設定の仕方と、音楽、楽器をいかに使用するかについての実習が行われました。具体的には、音楽とお話、音楽と映像の関係、音楽と動き等についての解説がありました。例えば、三匹のクマの紙芝居。講師のピアノの伴奏で、アシスタントが三匹

のクマの紙芝居をします。受講生が好きな楽器を持ってこの話に参加し、場面の状況に合わせて適当な音を出します。物事に参加し、役割分担して活動する重要性を意図したものです。音楽療法では個々人に応じた組み立て(プログラム)が重要となります。

名古屋市西区にお住まいの女性は、高齢者の施設に勤めている関係で音楽療法の学習が必要と考え受講していますとのこと。この年になって大学で講習が受けられることの喜びと、音楽療法で使用される様々な楽器を使う楽しさがあった、大変役に立っていると話しておられました。また、音楽療法に興味があった受講しているという若い女性は、将来は高齢者のケアをボランティアでしたいと語っておられました。



西キャンパス

講座名: 美しい水彩画Ⅱ
—秋の風景、花、果実を描く—
講師: 絵画科非常勤講師 秋田光彦
開講曜日: 水曜日
時間帯: 13:00～15:00

2007年10月10日(水)から11月21日(水)まで全7回の日程で開講されました。

岩倉から参加している女性は、「前から絵が好きで描いてみたいと思っていたが機会に恵まれなかった。そんな時、名古屋芸大の生涯学習を知り受けることにした。昨年は油絵を受講したので、今年は水彩画にチャレンジしている。」とのこと。「水

彩画は難しいがやりがいがありますね。」と語ってくれました。

北名古屋市から参加しているという男性は、絵を描いてみたいという動機とともに、大学で教えてもらう水彩画に興味があったとのこと。秋田先生の水をたっぷり含ませた絵の具で描く画法(たらしこみ画法)がとても気に入っているという事でした。

講座の開始とともに講師の先生の模範描写があり、教卓付近に全員が集まって熱心に観察していました。透明感のあるみずみずしい色彩の表現も、コツを掴めば意外と簡単なのかもしれません。

その後、受講生は各自の席にもどって制作中の絵に筆を入れていました。

講師の先生の個人指導を受けながら花や静物などを一生懸命描いている姿が印象的でした。



Column NUA No.3



私は芸術オンチ?

美術学部教養部会教授 大橋 廣



私は30年以上名古屋芸大に勤めている。オペラ公演は大半見ている。卒業も用事がない限り必ずいく。ミュージカルも一度も欠かさず観ているし、楽しみでもある。知っている演奏者が出ているピアノや声楽の演奏会も自分ではよく行く方だと思う。自慢じや

ないが、海外でもバリ、ウィーン、シドニーのオペラ座でオペラを観ているし、ザルツブルクの宮殿コンサートでは二度も室内楽を聴いている。

しかし、私は演奏会の最中、とって眠くなるのである。大まかに言えば、演奏時間の半分以上は寝ているので

はないかと思うほどである。そして、実に気持ちよく眠ってしまうのである。オーケストラのようになり大きな音での演奏でも、ぐっすり眠ることができる。ピアノの演奏会にいたっては、次の曲が始まってもし起きないし、気が付くと2、3曲終わっていたこともある。演奏そのものは素晴らしいと思うし、感動することも多いのに。

音楽学部の教員にその話をすると、いい演奏だから眠くなるのよ。少しは寝てもいいのじゃないとは言っ

てもらえる。しかし、学生にその事を聞くと、寝るのは演奏者に対して失礼だと怒った顔をする者が多い。

先日のおくの定演「レクイエム」では、歌以外は出演者には申し訳ないが半分以上寝ていたように思う。途中で目を覚ますと古谷先生の全身を使っている指揮が目に入る。少し見ていたが、また眠ってしまった。次に目を覚ますと1時間以上経っているのに、まだ演奏は続いていた。そして、古谷先生の指揮が目に入る。私は、その時演

名古屋保育・福祉
専門学校

公開コミュニティー講座
が開催されました



公開コミュニティー講座は、より地域と一体となつての学校づくりをめざして名古屋自由学院50周年を機に開催され今年で3回目を迎えました。

「陶芸教室」と「パソコン教室」の両講座は好評であり昨年に続いての開講、「大正琴入門」と「初めての絵手紙」教室が新たに加わりました。

各講座とも10月から11月にかけて4回の開催でありました。余暇の活用と生きがいを求めて受講者は年配の方が多く、熱心に受講されました。

講師の先生方の親身な教えに感謝され、充実した講座であったようで、受講者からはもっと受講回数を増やして欲しいとの声も聞かれました。

講座終了時には受講者同士での住所交換の光景が見受けられました。

大学全入時代を迎え専門学校を取り巻く環境は厳しくなり、このような地域との共生も一層重要となってきます。今後ともこの貴重な出会いを大切にしていきたいものです。

創立50周年学校祭「心を繋ぐ、時代を繋ぐ」

11月17日(土)に、「心を繋ぐ、時代を繋ぐ」のテーマのもと創立50周年の学校祭が華やかに開催されました。

当日は催し物と模擬店に各学科、各クラスの学生達が知恵とエネルギー

を噴出させ、地域の住民の方々や、卒業生の参加もあり、大いに盛り上がった学校祭となりました。

パネル制作、大型紙芝居など、どれも学生達の思いが込められていました。

滝子
幼稚園

「エコ」をテーマに作品展を行いました

2007年11月17日(土)に行われた今年の作品展では、「エコ」をテーマに作品作りに取り組みました。家庭にある牛乳パックやトイレトーパー、ペットボトル等をうまく取り入れ、それぞれのクラスのテーマに沿っ

て作り上げました。年少さんはトイレトーパーとでんぶん糊を混ぜ合わせて、紙粘土を作って使用しました。子どもたちは紙をこねることがとても楽しかったようで、「おうちでもやってみたい!」

と言っていました。見に来られた保護者の方からは「家でも紙粘土を作ってみました。」「帰ったらやってみます。」という声が上がっていました。

年中さんは「年少のときより大きく成長していることがはっきりわかる」と保護者の方からの意見をいただきました。

年長さんは対象となるものをしっ

かりと観察し、細かいところまで描き込むことができていました。また、想像力を発揮した作品や習字などたくさん作品を展示しました。保護者の方々は一つひとつ丁寧に見てくださっていました。

年少から年長までクラスごとにそれぞれ充実した作品展となりました。



奏よりも、あの体力と全身を使った古谷先生の指揮に感動したのを覚えている。私にはこれも有りかも。

美術学部の卒業展も必ず見に行くし、知っている学生の作品を見るのは楽しみでもある。アート&デザインセンターの展示も必ず顔を出す。私は見るのも好きだし、ビックリしたり感動もするから興味がないわけではない。しかし理解に苦しむ作品や分からない事も多い。まして抽象的なオブジェや絵に至っては、まるっき

り理解できない作品も多くある。もっと言えば、怒られるかもしれないが、私にでもこれなら創れるとか、描けると思える作品もある。実際には無理だとは思うが。

私が芸術にオンチなのは解っている。中学・高校の音楽と美術の成績は良くないし、その頃は自分の生活の中に芸術に関するものは何もなかった。スポーツと遊びがあれば良かった時代である。しかも、大学の教育学部に入學して、必修であるピアノの「バイ

エル」という言葉もわからないでバイブル(聖書)の時間と勘違いをして友達に笑われた私だから。

しかし、名古屋芸大に30年以上勤めて、最初より学生に対して変わらない事もある。

自分が全くできない音楽や美術を専門にして学んでいる学生に対して羨ましいし、ある種の尊敬の念をいだ



いていることである。だが、私はいくらでも演奏会では眠るだろうし、展覧会では首をかしげて見ているだろう。



マスター ↑↓to アーティスト



【第3回】

＜ そのドキドキには ＞
理由がある

長江和哉

音楽文化創造学科
サウンドメディアコース専任講師

1973年(昭和48年)、愛知県生まれ。
1996年名古屋芸術大学音楽学部声楽科卒業後、録音スタジオ勤務、ラジオ番組制作会社勤務等を経て、2000年に録音制作会社を設立。2006年より名古屋芸術大学音楽学部音楽文化創造学科 専任講師
両親は合唱で知りあい結婚、祖父はラジオ技師と、レコーディングエンジニアにふさわしい家庭環境で育つ。自身も幼少から常に傍らに音楽のある人生を歩む。さまざまなアーティストのアルバム制作にエンジニアとして参加、活躍中。

東キャンパス2号館、レコーディングスタジオのコントロールルーム。スポットの当たる中に、ところ狭しと無数のスイッチが並ぶミキサーが構える。「このコンソールは、SSLの4000G+というものです。10年ほど前までは、テープに録音していたのですが、現在は、このコンピューターのハードディスクに録音しています」。「Macの『Pro Tools』というソフト。以前は、スタジオでなければしっかりとした録音をするのは不可能でしたが、このPro Toolsが普及してからは、アーティストの家で録音した音源をCDにすることが可能となりました。但し、十分な知識が必要となります」。人好きのする笑顔

と表情が、その場の空気を穏やかにする。

レコーディングエンジニアという仕事。音楽を愛好する人にとっても、CDやレコードの制作に関心がなければ、その存在に注意を払うことは少ないのではないだろうか。

ドイツに赴き、特別客員教授、エバーハルト・ヒンツ先生の録音に立会い、大いに刺激を受けた。いくつもの写真をモニタに映し出すと熱心に言葉を繰り返す。「ベルリン芸術大学へ視察にいつてきたんですけど、サウンドメディアコースはこの学校にあるトーンマイスターコースというのをモデルに作られています。ドイツは、昔から音大の中に、トーン

マイスターコースがあってエンジニアを養成しているんです。楽譜を読む練習をして、ピアノも弾けて、聴音の訓練もして、電気工学を勉強して、具体的な録音も勉強して…と。録音セッションに3日間参加したんですけど、ヒンツ先生がディレクター兼エンジニアなんです。そこでは、この人のいうことは絶対なんです。もう一回テイクを録ろうとか、ここが悪いから直せとか、で、皆言うことを聞くんです。映画でいうと監督が自分でカメラ回しているという状態ですね」。トーンマイスターは、マイクを通した音楽という場合においては、その位置付けは指揮者以上といえるかもしれない。「第2の指揮者ですね。場合によっては指揮者よりも偉い」。



『FANTASY』 橋本浩規
 本学 11 期卒業生の NHK 交響楽団トランペット奏者 橋本浩規さん（本学非常勤講師）の待望の 1st アルバム『FANTASY』のレコーディングを担当。



中部フィルハーモニー交響楽団新楽団名披露コンサート
 それまでの「小牧市交響楽団」から「中部フィルハーモニー交響楽団」に名称を変更した際に行われた新楽団名披露公演のライブレコーディング。



特別客員教授 エバーハルト・ヒンツ先生の録音に同行するためベルリンへ。トーンマイスターユースがある UdK ベルリン芸術大学を訪問。多くの学生がレコーディング作業をしていた。



世界中の録音現場で使われているマイク「NEUMANN（ノイマン）」の本社。



教会でのレコーディングの様子

デジタル技術の発達は、音楽の編集を可能にした。ポピュラー音楽の CD で、Vocal を修正してあることは周知の事実とも言えるが、オーケストラでも状況は同じ。ドイツでは、トーンテクニックという肩書きがオーケストラの一員としてクレジットされるという。

翻って日本の状況で、エンジニアにできることを考え仕事に向かっていく。「ディレクターの意図、演者の意図、あとはそれを聞く一般の人がどう要求するのかを制作者は、よく考える必要があります。それらは誰も言ってくれないですからね、自分で察して行って最終的にいい結果を残す。これが大事なことだと思います」。

「技術的なスキルを勉強することも大事なのですが、その背景にあるものを考えることが大事だと思います。聴いてドキドキするものを作るには、まず自分がドキドキしなきゃいけない。作っている人がドキドキしなければ、お客さんはそうはならないと思いますからね。そして、そのドキドキは、何がそういう要素なのか分析すればわかることだと思うんですよ。なぜドキドキしたかを考えて、そういう要素を自分のアイデアとしてとり入れていかなきゃいけないと思うんです」

エンジニアには「芸術家じゃない部分がある」と謙遜するが、強い信念が垣間見えた。



音楽の制作現場について

音楽制作、ことに CD やレコードの制作には、演奏者以外にも様々な役割の人々が係わる。演奏するスタジオや必要な機材、人員、バジェットのマネジメントを行うプロデューサー。音楽の方向性を決め現場を取り仕切るディレクター。そして音響と技術の専門家であるエンジニアがその代表である。日本の場合、プロデューサーは、レコード会社の編成部長といった場合が一般的であり、音楽を専門的に学んだ人は少数であった。またエンジニアについても、その名の通り、技術が専門で音楽的な素養がなく、楽譜すら読めない場合が多かった。そんな因習を引き継いでか、エンジニアは、こと音楽の内容についてプロデューサー、ディレクター、演奏者に意見を述べることはごく稀である。いい音で録られた音楽には、広い音楽の知識と素養を持ったエンジニアが関与しているという事実が広まるにつれ、音楽性の豊かなエンジニアが必要とされるようになってきている。

2008年2月以降の主な行事・イベント案内

音楽学部

- 卒業生によるピアノ演奏会
2月1日(金) 18:00開演
電気文化会館
- 第6回歌曲の夕べ
2月8日(金) 18:30開演
電気文化会館
- 平成19年度研修生修了演奏会
2月14日(木) 18:00開演
電気文化会館
- 大学院音楽研究科特別演奏会
2月15日(金) 18:00開演
電気文化会館
- アンサンブル・フィラルモニク・ア・ヴァン
第9回 定期演奏会
2月22日(金) 18:30開演
愛知県芸術劇場
- 第12回春のコンサートピアノのしらべ
2月23日(土) 17:30開演
電気文化会館
- 第35回卒業演奏会
2月29日(金)・3月1日(土)
18:00開演
しらかわホール



- 大学院音楽研究科 第10回修了演奏会
3月4日(火)～6日(木) 18:30開演
しらかわホール



- 第30回オペラ公演「ジャンニ・スキッキ」
3月14日(金) 18:30開演
中京大学文化市民会館
プルニエホール
- ミュージカル公演
「Nostalgia～ショービジネスの魔
女たち～」
3月27日(木) 18:30開演
3月28日(金) 15:00開演
名古屋芸術創造センター

美術学部 デザイン学部

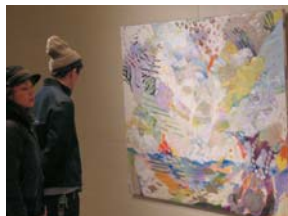
- 第35回卒業制作展
日程:2月27日(水)～3月2日(日)
10:00～18:00
(金曜日は20:00まで)
会場:愛知県美術館ギャラリー
(愛知芸術文化センター8階)
学科:美術学部絵画科
(日本画コース・洋画コース)
美術学部美術文化学科
デザイン学部デザイン学科
- 第12回大学院修了制作展
日程:2月26日(火)～3月2日(日)
9:30～19:00
(日曜日は17:00まで)
会場:名古屋市民ギャラリー矢田
学科:美術学部造形科
版画選択コース
デザイン学部デザイン学科
- 佐藤園夫展
3月26日(水)～4月9日(水)
本学西キャンパスA&Dセンター



- 卒業制作展記念講演会
日時:2月29日(金) 14:00～16:00
会場:愛知県芸術文化センター12階
アトスペースA
講師:真野響子氏(女優)



- 第12回大学院修了制作展
日程:3月4日(火)～3月9日(日)
9:30～19:00
(日曜日は17:00まで)
会場:名古屋市民ギャラリー矢田
学科:大学院美術研究科
デザイン研究科



- 人間発達学部 短期大学部

- 短期大学部卒業演奏会
3月20日(木) 15:00開演
しらかわホール



- 大学・短期大学部卒業式
3月21日(金) 11:00～
中京大学文化市民会館



名古屋保育・福祉専門学校

- 進学相談会
2月2日(土) 10:00～
- 入学選考日
2月17日(日)
- 卒業式
3月18日(火)

幼稚園(クリエ)

- おんがくかい
2月13日(水)・14日(木) 10:30～
- 新入園児入園説明会
2月23日(土) 10:00～
- おたのしみ会
3月4日(火) 10:30～
- お別れ会
3月13日(木) 10:30～
- 修了証書授与式(卒園式)
3月15日(土) 10:00～

幼稚園(滝子)

- 節分・豆まき会
2月1日(金) 10:30～
- 生活発表会
2月24日(日) 9:00～
- ひなまつり会
3月3日(月) 10:30～
- 修了証書授与式(卒園式)
3月17日(月) 10:00～

編集後記

連載「クローズアップ NUA-ism」—社会で活躍するOB生—に、今回は、似顔絵セラピストでイラストレーターの村岡賢一氏に登場いただきました。昨年の12月14日にご多忙の中、わざわざ西キャンパスにお越しいただき取材させていただきました。在学中にオープンキャンパスで似顔絵を書いたことがこの道に入ったきっかけとなったそうです。久しぶりのキャンパスと恩師の先生たちとの再会で笑顔が弾んでおられました。

今回は音楽学部のミュージカルの特集を組みました。本学のミュージカルは脚本・演出から音楽、舞台装置、振付、演奏に至るまで基本的には全てオリジナルで、各パートを専門の教員が担当して

います。最近は海外公演もあり、年間の公演数は十数回に及んでいます。現在は3月公演「Nostalgia ショービジネスの魔女たち」に向けて猛練習中です。

2月末から3月にかけては、芸術大学の4年間(大学院は更に2年間)の締めくくりとして、卒業制作展や卒業演奏会、大学院は修了制作展と修了演奏会が行われます。学生たちの情熱が凝縮された大作や、音楽家を目指している晴れ舞台に、皆様も是非足をお運びください。(ひ)

本誌へのお問い合わせやご意見は下記のメールアドレスまでお寄せください。

geibun@nua.ac.jp



大学基準協会の 認証評価に合格しました

本学は2006年4月に、認証評価機関である大学基準協会の大学基準に適合と認定され、正会員になりました。認定期間は、2006年4月から2011年3月までです。これによって、法令化されている「第三者による認証評価」にも合格したことになります。

【表紙の作品】



オリジナルミュージカル
「アップルパイは殺しのサイン!？」
音楽学部音楽文化創造学科ミュージカルコース

発行:名古屋芸術大学
編集:全学広報誌編集委員会
制作:(株)クイックス
発行日:2008年2月8日

【お問い合わせ先】
名古屋芸術大学 芸術文化交流室
〒481-8535
愛知県北名古屋市徳重西沼65番地
電話 0568-24-0325
Fax 0568-24-0326
E-mail geibun@nua.ac.jp